

東海会工会より、常任幹事 渡部 守 (S30C) 様が、故郷会津に思いをはせて新聞 (中日新聞) に投稿し掲載された新聞記事が、送られてきました。

その新聞記事を「同窓会会報 2017」11 ページに掲載させていただきました。しかし、紙面の関係で文字が小さく読み取ることができません、ここに、新聞記事を再度掲載させていただきます。ご了承ください。

(同窓会誌編集委員会)



皇居内の水田で、恒例の稲刈りをされる天皇陛下＝2日午後 (宮内庁提供)

皇居も実りの秋
天皇陛下稲刈り
 天皇陛下は二日、皇居内の生物学研究所協にある水田で、毎年恒例の稲刈りをされた。晴れわたった秋空の下、茶色いシャツ姿の陛下は右手に持ったかままで、うるち米の二ホンマサリと、もち米のマンゲツモチ計百株を手際良く刈り取った。今年四月に陛下が自ら種もみをまき、五月に二百株の田植えをした。収穫した米は十一月の新嘗祭など主に皇室の神事に使われる。田は約二百四十平方

稲育て 幸せも収穫
 今年の歌会始で天皇陛下は皇居内の夕闇迫る田に入り、実った稲を鎌で刈り取る様子を詠まれました。一目でその情景が目に浮かぶようでした。わが家の庭の隅にも、一坪半ほどの田があります。春の田植え、夏の草取りと水の管理、秋の稲刈りと、成長を妻と見守りながら元気をもらっています。刈り取った稲の

小東は昨秋、初めて熱田神宮に奉納させていただきました。穂やかな暮らしを神様に感謝して、この上ない幸せを感じています。(名古屋守山・男・78)



月の新嘗祭など主に皇室の神事に使われる。田は約二百四十平方

編集局です
 電話:052(201)4133
 平日午前11時~午後4時
 FAX:052(221)0819
 ✉ yoimimi@chunichi.co.jp
 本紙HP、中日新聞プラスからも投稿できます
 住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号明記。二重投稿はお断りします

授業中 幼子あやす

夕刊連載「新子守唄ものがたり」で、子守学校というものがあつたと知りました。

私の故郷、東北の片田舎の小学校も農家の子が多かったです。春の田植えなど、農繁期は一家総出の作業。当時は機械化されておらず猫の手も借りたい忙しさの中、弟妹の面倒を見るのは年上の子どもの仕事でした。教



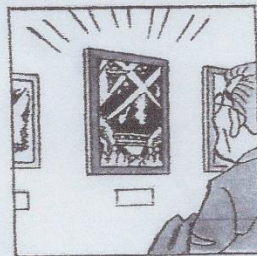
室の後ろの席に座って幼子をあやし、ぐずるとそと廊下に出て、窓の間から授業を見ていたっけ。皆が温かく見守ったのを思い出しました。(名古屋守山・男・79)

赤子を背に学校へ



空襲の絵生々しく

名古屋市民ギャラリー栄でボールペン画展が開かれました。見事な作品が並ぶ中、目を最も引いたのは空襲を描いた絵。守山区の水道みちの下、逃げ惑う人々が緻密に描かれています。B29、探照灯の光、照明弾。軍需工場があつた春日井方面は燃えています。十歳のときの記憶を頼りに、八十歳の方が手掛けたそうで



す。私が郷里で見た、猪苗代湖上空を行くB29の編隊を思い起こしました。今は緑道として利用される水道みち。戦後七十年、平和を守りたいです。(名古屋守山・男・79)

2015年(平成27年)6月16日(火曜日)

お膳囲み豊作願つ
天皇陛下が皇居の水田で田植えをされたと五月の朝刊にありました。麦わら帽子に長靴のお姿が目につかぶよつです。私の故郷、会津で田植えは一家総出の神聖な行事でした。その夜は「さなぶり」と言ってお膳囲みを手伝いの人とお膳を囲むのが習わし。神棚に稲の苗とお神酒を供え、豊かな実りと家族の健康を神



様に祈願しました。私も庭のミニ水田に「あいちのかおり」の苗を妻と百株ほど植え、晩には祝い膳を囲みました。豊作になるといいなあ。(名古屋守山・男・78)

2015年(平成27年)6月25日(木曜)

夕刊の旅面に故郷の福島県の五色沼湖沼群が載っていました。六十余年、高一の夏休みに友人と三人で裏磐梯へ行きました。磐梯山の噴火でできた湖沼のうち、毘沙門沼のエメラルドグリーンの水は底が見えるほど透き通り、別世界でした。沼のほとりにテントを張り、木の枝を使って飯ごう炊さん。沼に飛び込むと、体がしびれるほど

また訪れたい思い出の五色沼

冷たかった。唇が真っ青になり「沼の色に染まった」と笑い合いました。今度の帰省の折にまた訪れてみます。(名古屋守山・男・78)



2015年(平成27年)8月24日(月曜日)

戦中ゼロ戦見送る
本欄で戦争の話を読みました。故郷の福島県で国民学校に通っていた私は教室で突然、バリバリと響く音と窓の振動に見舞われました。見上げる飛行機の後ろ姿が。先生に「零式艦上戦闘機(ゼロ戦)だよ」と教えてもらいました。白いマフラーを巻いた操縦士が格好良く思えたものです。ゼロ戦の代わりに、学



校から一里ほど離れた猪苗代湖の上空を米軍のB29が飛ぶように。そのたびに空襲警報が鳴り、防空壕(ごう)に潜り込んだのを忘れられません。(名古屋守山・男・78)

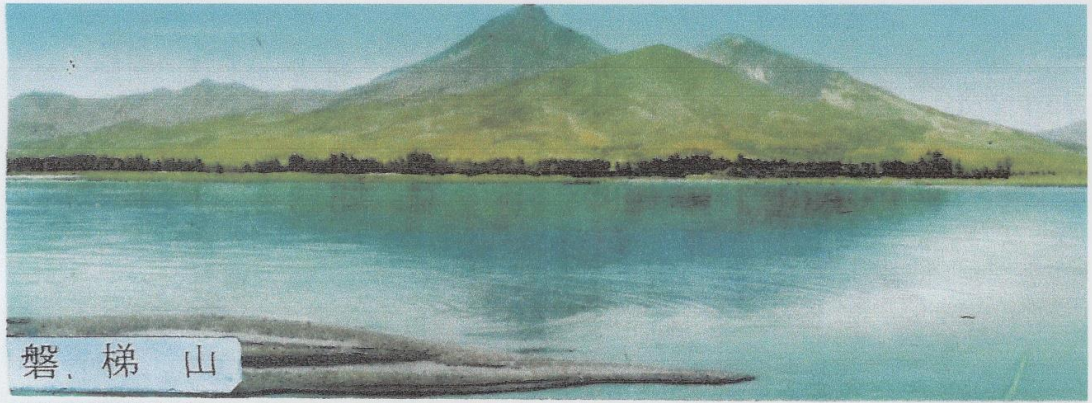
2015年(平成27年)11月2日(月曜日)

朝夕に秋を感じるこの頃、わが家の柿の木に枝も折れんばかりに実がなりました。日に日に色づいていく様子を見て、元気をもらっています。故郷の会津地方には、「みしらず柿」という名産品があります。わが身を顧みず、枝が折れるほど実を付ける特徴から名前が付いたという説も。焼酎に漬けて渋を抜けば、皇室にも献上される

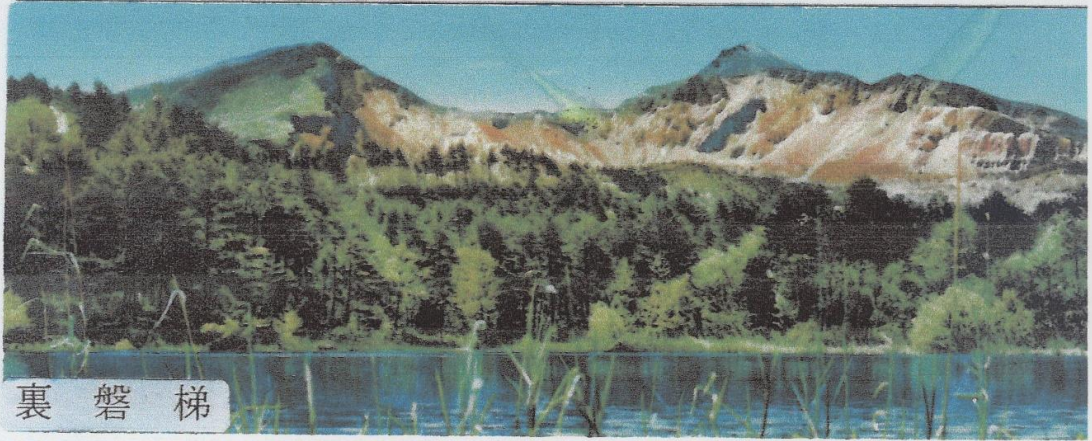
名産の柿「食ってみなんしょ」

極上品に。会津にいぐとあったら、食ってみなんしょ(会津に行くことありますたら食べてみてください)。 (名古屋守山・男・78)





磐梯山



裏磐梯

猪苗代町出身 渡部 守

(S30C)

新聞の旅面に、福島県の五色沼湖沼群が載っていた。六〇余年前のことが想い出される、高校一年の夏休みに友人と三人で、猪苗代駅で落ち会い乗り合いバスで裏磐梯へ、未だ、磐梯朝日国立公園になる前の事でもあり、訪れる人も余り見かけない。噴火によって出来た沼、湖水の数三百余りと言われる。その中に、五色沼が点在し絵の具を流した様なエメラルドグリーンの毘沙門沼、水は沼の底が見える程透き通り、別世界の様だ。三人で、沼の畔にテントを張り、木の小枝を集め、飯ごう炊飯、炊き火の番を交代でしながら、沼に飛び込み、泳ぎ、顔を水に付け、沼底を、磐梯噴火で出来た岩が重なり合、色鮮やかな水苔が岩の表面を覆っている。身体がしびれる様な冷たさ、お互いの唇が真っ青、五色沼の水の色に染まったとお互いに笑いあった。

あの時のことが懐かしく想いだされる。五色沼で泳いだり焚き火をしたりした事は、国立公園の今では考えられない事である。磐梯登山で山頂から見おろす裏磐梯の森と湖の光景は、海外旅行で見た、北欧の森と湖の国、フィンランドその風景のようだ。

今度、帰省の折には裏磐梯五色沼のあの思い出の地に行って見よう。